



結果報告書の見方について

CREÀGE

TOKYO

レディースドッククリニック

この度はクレアージュ東京 レディースドッククリニックの

人間ドック・健診を受診いただき、誠にありがとうございました。

判定の見方や、結果報告書に記載のある内容の一部についてご説明いたします。

「D 要受診または要精密検査」が記載されている項目に関しては、医療機関の受診をおすすめいたします。

何かご不明な点、ご不安な点がございましたら、

外来でアフターフォローもさせていただいておりますので、

裏面のお電話番号よりお気軽にご連絡くださいませ。

判定区分について

判定区分は日本人間ドック学会にならっております。

A	異常なし
B	軽度所見のみ（または精査済み）にて問題なし
C	要再検査（再検査の時期は総合コメントをご覧ください）
D	要受診または要精密検査
E	経過観察中または治療中

もくじ

計測検査	3	血液一般	6	膠原病	9
血圧	3	鉄代謝	6	腫瘍マーカー	10
心電図	3	肝臓・胆嚢機能	7	感染症	11
眼圧	3	腎臓機能	7	腹部超音波	11
眼底	4	膵臓機能	8	上部消化管検査・胃がんリスク	11
聴力	4	電解質	8	乳房検査	12
肺機能	4	脂質代謝	8	婦人科検査	14
胸部X線	5	糖代謝	8	女性ホルモン	15
尿検査	5	炎症反応	9	その他検査	15
便潜血	5	甲状腺ホルモン	9		
骨代謝マーカー	5	甲状腺超音波	9		



計測検査

項目名	分かること
身長・体重・BMI	BMI値は身長に見合った体重かどうかを判定する数値です。体重÷身長÷身長で算出します。18.5～24.9が基準範囲です。
腹囲	へその高さで測定した値です。女性では90cm以上で、かつ血圧、血糖値、脂質のうち2つ以上が基準値から外れると、「メタボリックシンドローム」と診断されます。



血圧

分かること
心臓の収縮、拡張により血管壁にかかる圧力のことで、心臓のポンプ機能や血管の状態がわかります。最高血圧は心臓が収縮した時、最低血圧は心臓が拡張した時の圧力です。前日の寝不足や測定時の緊張により値が上昇します。



心電図

分かること
心臓が収縮、拡張する際に生じる微弱な電流を波形として記録したものです。不整脈があるか、心筋の血液循環が不良(狭心症)になっていないか、心筋が壊死(心筋梗塞)していないか、などがわかります。

主な所見・診断

洞不整脈	心臓の拍動のリズムは正常ですが、脈拍が不規則な状態をいいます。健康な人でもよくみられ、吸気時に早くなり、呼気時に遅くなる呼吸性不整脈の一種です。
上室性期外収縮	本来の場所(洞結節)より早く別の場所で拍動が指令される場合を期外収縮といい、心房や房室接合部(上室)で発生した場合をいいます。緊張、興奮、ストレスなどで起こることもあります。動悸を感じたり、頻繁に起きる場合は薬物で治療することもあります。
心室性期外収縮	本来、心臓の収縮が指令されない心室から、通常のリズムよりも早く発生した状態をいいます。健康な人では興奮、喫煙、過労などでみられます。心臓疾患の方でみられた場合、危険な不整脈に移行する可能性を検査する必要があります。
RSR'パターン/ 完全右脚ブロック	心房からの電気刺激は心室に入ると右室は右脚、左室は左脚前枝・後枝に分かれ左右心室の筋肉を収縮させます。RSR'パターンは、右脚の電気の流れがわずかに障害されている場合に認めます。いわゆる異常心電図波形として指摘されますが、正常者でも認めることがあり問題ありません。完全右脚ブロックは右脚の電気の流れがブロックされた状態です。基礎疾患のない右脚ブロックは問題のない事が多く、電気の流れは左脚を通過して伝わりますので右心の収縮には影響はありません。定期的に心電図検査を受けるようにしてください。狭心症、高血圧性心疾患などを合併し指摘された場合には原疾患に対する治療が行われます。



眼圧

分かること
眼球の中は房水という液体によって圧力が保たれており、これを眼圧といいます。眼圧が高い場合は高眼圧症、または緑内障の疑いがあります。緑内障は失明の原因にもなる病気です。眼圧が高い場合は精密検査の必要があります。



眼底

分かること

眼球の奥にある血管・網膜・視神経の状態を調べる検査です。動脈硬化の程度、高血圧、糖尿病による眼の合併症や緑内障・白内障の有無などを調べます。

KW分類		高血圧によって起こる眼底の変化を0～IVに分類したものの。
Scheie分類	H	高血圧性変化を0～4に分類したものの。
	S	動脈硬化性変化を0～4に分類したものの。
Scott分類		糖尿病による網膜変化を0～IVに分類したものの。

※いずれも0が正常で数字が大きいが重くなります。

主な所見・診断

視神経乳頭陥凹拡大	網膜の神経線維が減少すると視神経乳頭の凹が通常よりも大きくなります。緑内障を疑う重要な所見です。
視神経線維層欠損	網膜の最も内側にある神経線維の欠損で、緑内障を疑う重要な所見の一つです。緑内障以外に古い眼底出血後などでもみられます。
黄斑変性	網膜の中心で物を見るのに大切な細胞が集中する黄斑部が、じわじわと障害されて視力障害を生じる病気です。
判定困難/不能	瞳の大きさが小さいためや、白内障や硝子体混濁の影響などで、眼底写真がきれいに写らないため正確な判定ができない状態です。



聴力

分かること

主に1000Hz(低音域)と4000Hz(高音域)の聴力を調べます。いずれも30dB(デシベル)以下であれば異常なしです。dBとは音圧の単位です。年齢とともに4000Hzの聴力は低下します。



肺機能

分かること

大きく息を吸ったり吐いたりして、呼吸機能を評価する検査です。

主な所見・診断

%肺活量	性別、年齢、身長から算出された予測肺活量に対して、あなたの肺活量が何%であるかを調べます。80%以上が基準値です。79%以下では肺のふくらみが悪いことを意味し、間質性肺炎や肺線維症などが考えられます。
1秒率	最大に息を吸い込んでから一気に吐き出すとき、最初の1秒間に何%の息を吐きだせるかを調べます。69.9%以下では肺気腫や慢性気管支炎などが考えられます。



胸部X線

分かること

肺炎、肺結核、肺がん、肺気腫、胸水、気胸など、呼吸器の疾患の有無、その程度がわかります。

対象となる感染症

胸膜肥厚	何らかの原因で胸膜(肺を包む2層の膜)が炎症を起こした後に治癒し、その影響で胸膜が厚みを帯びた状態です。自覚症状は無いことがほとんどです。肺の上部(肺尖部)によくみられます。
線状影・索状影	レントゲン写真上で写る白く細い線状の陰影を線状影、2~3mmのやや太い陰影を索状影といいます。肺感染症等が治った痕跡などとして現れます。
結節影	レントゲン写真上で写る直径3 cm以下の類円形の陰影です。陳旧化した肺炎、結核、非結核性抗酸菌症、良性腫瘍、他の部位のがんからの転移などにみられます。
心陰影の拡大	心臓の陰影の横幅が胸の横幅の50%よりも大きくなった状態です。肥満、高血圧症、心不全などの心疾患の場合にみられます。



尿検査

項目名	分かること
尿蛋白	腎臓の傷害により尿蛋白がふえます。腎炎、糖尿病腎症などが考えられます。
尿ウロビリノーゲン・尿ビリルビン	陽性(+)の場合は、肝炎や肝硬変などの肝障害や胆道狭窄などの胆道系障害、溶血の可能性を示します。また、尿ウロビリノーゲンは飲酒継続後や肉食、疲労時、便秘などでも異常値がでることがあります。
尿潜血	全身性の出血傾向、異物、先天性異常、炎症、腎臓・尿路・泌尿器系の腫瘍などで血尿になります。
尿ケトン体	肝臓で生成され、骨格筋、脳、腎などにおけるエネルギー源、脂肪合成などに利用され、正常では血中、尿中にほとんど検出されません。糖尿病や、絶食状態の時にケトン体が増加します。
尿pH	尿が酸性かアルカリ性を調べる検査です。中性は7で、それより数値が小さいと酸性、大きいとアルカリ性になります。健康人の尿は弱酸性です。
尿比重	尿中の水分と水分以外の物質の割合を算出したのが尿比重です。尿比重の結果から、腎臓の尿濃縮・希釈能力がわかります。
尿沈渣	尿を遠心分離して、尿中に含まれる固形成分を顕微鏡で調べる検査です。健康人には含まれない成分や、健康人よりも量が多いかどうかを調べて身体の異常を調べます。



便潜血

分かること

便に血が混ざっているかどうかを調べる検査です。陽性(+)の場合は、大腸ポリープ、大腸がん、痔などが考えられます。40代の女性の4人に1人が大腸ポリープがあるとされています。40歳を過ぎたら一度大腸内視鏡検査を受けることをお勧めします。



骨代謝マーカー

項目名	分かること
25OHビタミンD	血清中のビタミンD濃度を調べる検査です。ビタミンDは小腸や肝臓でのカルシウムとリンの吸収を促進し、骨の形成と成長を促進します。そのため、ビタミンD不足が長く続くと骨密度の低下につながります。日本人の8割はビタミンD不足の状態といわれており、骨粗鬆症予防の観点からもビタミンD値を把握することが重要です。ただし、肝硬変症や腎臓病をお持ちの方は、測定につきましては主治医にご確認ください。また、ビタミンDは過剰状態になるとビタミンD中毒を起こす可能性があります。食事等から摂取する場合は過剰症の危険はありません。



血液一般

項目名	分かること	
白血球数	白血球は、細菌やウイルスなどの外敵や、役目を終えた細胞などを排除し、身体を守る働きをします。感染症やけがなどにより身体に炎症がおきると増加します。妊娠中、運動直後や、ヘビースモーカーは健康でも増加することがあります。白血病の場合は、異常な白血球が増えますが、逆に白血球が減ることもあります。白血球が減ると免疫力が低下して感染症にかかりやすくなります。	
赤血球数	赤血球が不足すると貧血状態になります。反対に、赤血球の数が多すぎると、血液の粘度が増すため、血液循環が悪くなり、頭痛やめまい、高血圧や、脳梗塞、心筋梗塞の原因になることがあります。	
ヘモグロビン	血液中の赤色の素になるヘモグロビンの量を調べます。ヘモグロビンは酸素を全身の組織に運び、二酸化炭素を受け取って肺まで運ぶ働きをします。ヘモグロビンの量が足りないと、酸素の運搬に支障が起き、動悸や息切れ、めまいなどの貧血症状が生じます。	
ヘマトクリット	ヘマトクリットとは、一定量の血液中に占める赤血球の容積の割合をパーセントで表した数値です。「ヘマトクリットが高い」=赤血球の容積が多い」こととなります。赤血球が多すぎると血液に粘り気がでて、血管をスムーズに流れにくくなります。	
MCV・MCH・MCHC	MCV…赤血球1個の平均的容積量です。赤血球の大きさの指標となります。 MCH…赤血球1個に含まれるヘモグロビン量を平均的に表したものです。 MCHC…赤血球の一定容積に対するヘモグロビン量の比を表したものです。 鉄欠乏性貧血、悪性貧血、再生不良性貧血の診断に使用します。	
血小板数	血小板は、血管からの出血を止める働きをします。貧血、悪性腫瘍などの場合は高値となることがあります。膠原病、再生不良性貧血、血小板減少症などの場合は低値となることがあります。	
白血球分画	好中球	白血球の約50～70%を占め、細菌や真菌などの殺菌と分解をします。感染症、炎症、急性中毒などの場合は増加することがあります。貧血、ウイルス感染、ビタミンB12や葉酸欠乏などの場合は減少することがあります。
	好酸球	白血球の約1～2%を占め、寄生虫や寄生虫の卵を傷つけます。寄生虫感染、アレルギー性皮膚炎、アトピー性皮膚炎、気管支喘息などのアレルギー疾患の場合は増加することがあります。
	好塩基球	アレルギーに関係し、アレルギー性鼻炎、アトピー性皮膚炎、気管支喘息などのアレルギー疾患、潰瘍性大腸炎などの場合は増加することがあります。
	単球	白血球の約7%を占めます。細菌や傷ついた古い細胞を除去します。感染症、白血病などの場合は高値となることがあります。悪性貧血の場合は低値となることがあります。
	リンパ球	白血球の約30%を占めます。抗体をつくり免疫反応を引き起こします。感染症、白血病、リンパ腫の場合は高値となることがあります。免疫不全の場合は低値となることがあります。



鉄代謝

分かること	
鉄欠乏性貧血の指標です。赤血球を作るためには鉄分が必要です。体内の鉄分が不足したり、貯蔵や運搬能が低下すると動悸やめまい、立ち眩みなど心身に不調が現れるので鉄分の補充が必要になります。	
項目名	分かること
鉄(Fe)	赤血球の酸素運搬機能を支えるヘモグロビンをつくる材料の一つです。からだのどこかに出血があったり、鉄分の摂取が少ない場合に低値となり、鉄欠乏性貧血をきたします。成人女性の5～10%がこの貧血をもつといわれています。
総鉄結合能(TIBC)	血中の鉄と結合して輸送を行うトランスフェリンという蛋白の総量を表しています。鉄分が不足するとトランスフェリンを増やして鉄と結合しようとするため高値になります。
フェリチン	体内に鉄を貯蔵するはたらきがあります。鉄欠乏性貧血では低値になります。



肝臓・胆のう機能

項目名	分かること	
AST(GOT)・ALT(GPT)	アミノ酸代謝に関係する酵素です。肝臓の細胞にたくさん含まれています。肝炎ウイルスなどにより肝臓の細胞が破壊されると、血液中のASTとALTの数値が高くなります。ASTは心臓、骨格筋、腎臓にも含まれています。ALTは肝臓に多く含まれており、肝臓の病気で高い値になります。	
LD(LDH)	身体中に存在しますが、特に肝臓、心臓、腎臓、筋肉、血球に含まれる酵素です。LD(LDH)が存在する組織に異常が起こると、血中に流れ出し高値になります。妊娠後期や、軽い運動で高値になることがあります。	
γ-GTP	肝臓、腎臓、膵臓、前立腺などに存在する酵素で、薬物やアルコールの代謝に関わっています。肝細胞の破壊や、胆汁がスムーズに出ず黄疸が起こっているときに数値が上がります。ASTやALTが基準値で、γ-GTPのみ高値の場合は、薬剤の服用か、飲酒習慣があると判断されます。	
コリンエステラーゼ	肝臓で作られる酵素のひとつで、肝機能が低下すると値が低下します。また、脂質代謝にも関わっているため、栄養過多で起こる脂肪肝や脂質異常症では、値が上昇します。	
総ビリルビン	ビリルビンには、水に溶けにくい「間接型ビリルビン」と、水に溶ける「直接型ビリルビン」の2種類があります。この2つを総合して総ビリルビンといいます。黄疸は、肝臓の病気で細胞が壊れたり、胆石などで胆道が詰まることにより、直接型ビリルビンが血液中に逆流している状態です。溶血性貧血で赤血球が大量に壊れると、間接型ビリルビンが血液の中で増加します。	
ALP	肝臓、骨、胆管などにあるリン酸化合物を分解する酵素です。胆石などのように胆汁の通り道に障害物ができて胆汁の流れが邪魔されると数値が高くなります。ALPから肝機能を調べますが、甲状腺機能亢進症、潰瘍性大腸炎、骨の病気で高値になります。脂肪分の多い食事の後でも高値になります。	
LAP	たんぱく質を分解する酵素で、肝臓や腎臓、腸などに多く存在し、また胆汁にも含まれています。肝炎、肝硬変、肝がんなどで胆道が詰まり、胆汁の流れが阻害されると、血液中に胆汁が逆流して、LAP値が上昇します。	
CPK	筋細胞にもっとも多く含まれている酵素の一種です。CPKは組織がダメージを受けると血液中に漏れ出る性質があります。CPKが上昇している場合には、どのタイプのCPKが上昇しているかを調べることで、どの臓器にダメージが生じているかを推測します。	
総たんぱく	血液中に含まれている数種類あるたんぱく質の総称です。たんぱく質の成分のうち約60%が「アルブミン」、約20%が「グロブリン」です。たんぱく質の量の増減は肝臓や腎臓などの障害を示します。	
たんぱく質	アルブミン	アルブミンは肝臓で合成されるたんぱく質の成分のひとつです。血清総たんぱくの約60%を占めます。アルブミンが低下すると、栄養不良や肝障害、腎疾患、胃腸疾患などの可能性が考えられます。
A/G比	血清中のたんぱく成分である「アルブミン」と「グロブリン」の比率を調べる検査です。上記の総たんぱくが正常値でもA/G比に異常がみられると疾患の可能性ががあります。	



腎臓機能

項目名	分かること
尿酸(UA)	体内で作られる老廃物で、大部分は尿から排泄されます。血清尿酸値が7mg/dL以上になると、痛風発作や腎機能障害などが起こる可能性が高くなります。メタボや心血管障害との関連が深いといわれています。
尿素窒素(BUN)	不要になった体のたんぱく質は分解されて尿素になり、尿素窒素の大部分は尿の中に排出されます。この尿素中に含まれる窒素の量が尿素窒素です。腎機能が低下すると血液中の尿素窒素濃度が上昇します。
クレアチニン(Cr)	クレアチニンは、たんぱく質が筋肉でエネルギー源として使用された後に残った老廃物で、そのほとんどが尿中に排出されます。腎機能がかなり低下すると血液中のクレアチニン濃度が上昇します。
eGFR	慢性腎臓病(CKD)は、その重症度に応じて、ステージ1から5に分けられています。その指標となるのがeGFRです。eGFRは血清クレアチニン値と年齢と性別から計算できます。



膵臓機能

項目名	分かること
アミラーゼ	膵臓や唾液腺から分泌される消化酵素で、食事から摂った糖質を分解します。膵臓に障害が起こると、アミラーゼの数値が高くなります。
リパーゼ	中性脂肪を分解する消化酵素です。膵臓が障害を受けると血中においてリパーゼの濃度が高くなります。



電解質

項目名	分かること
ナトリウム(Na)	食塩の成分で、食物と一緒に取り込まれます。細胞外液の量や液の濃さ(浸透圧)のコントロールに関与します。腎臓でナトリウム濃度と体内量を調整します。食塩を摂りすぎると、細胞外液が増加して血圧が上昇します。ナトリウムを測ると水分代謝異常があるかどうか判ります。
カリウム(K)	筋肉や神経細胞の活動に必要な電解質です。
クロール(Cl)	ナトリウムと共に細胞外液に含まれます。水分量の維持、浸透圧、および血液を中性に保つために重要です。
カルシウム(Ca)	骨や歯のもとになるミネラルです。不足すると骨粗鬆症や成長不良、精神不安になります。
無機リン(P)	身体の中でカルシウムの次に多い電解質です。無機リンの濃度は、血清中のカルシウムと一緒に測定し、内分泌と骨代謝の異常を調べることができます。
マグネシウム(Mg)	マグネシウムは、細胞内に高濃度に含まれています。酵素活性やエネルギー代謝過程に欠かせない成分です。



脂質代謝

項目名	分かること
総コレステロール	血中のすべてのコレステロールの量を示します。コレステロールは、細胞や血管、ホルモンを作る原料になります。コレステロールの量が過剰になると、動脈硬化につながります。
HDLコレステロール	HDLコレステロールは俗に善玉コレステロールといわれ、動脈壁についたLDLコレステロール(悪玉コレステロール)をはがして肝臓へ運びます。HDLコレステロールが低いとLDLコレステロールが高くなり、動脈硬化を招きやすくなります。HDLコレステロールを増やすには、ウォーキングなどの有酸素運動、禁煙、食事の見直しが有効です。
LDLコレステロール	血中のLDLコレステロールの量を示し、肝臓で作られたコレステロールを、各臓器へと運ぶ働きがあります。LDLコレステロールは、別名悪玉コレステロールと呼ばれ、酸化すると血管壁に付着しやすくなり、動脈硬化の原因になります。
中性脂肪	中性脂肪は血液中で、エネルギー源の輸送や細胞の働きのために使われます。糖質を摂りすぎると、余った分が中性脂肪になり身体に貯蔵されます。中性脂肪が血液中で増えすぎると、動脈壁に蓄積して動脈硬化の原因になります。
nonHDLコレステロール	nonHDLコレステロールは"総悪玉"とも言えるものです。nonHDLコレステロールは170mg/dL以上で脂質異常症と診断されます。LDLコレステロールに加えnonHDLコレステロールの値も考慮することで、脂質異常症をよりきめ細かく治療できます。



糖代謝

項目名	分かること
尿糖	ブドウ糖は尿細管でそのほとんどが再吸収されて血中に戻されますが、糖尿病などの疾患が原因で血糖値が高くなると、全部再吸収されず、残った糖が尿中に排泄されます。
血糖	血液中のブドウ糖の量を調べます。血液中のブドウ糖は、各細胞のエネルギー源になりますが、膵臓で作られるインスリンが不足したり、インスリンの作用が低下すると、血液中の糖濃度が高くなります。
HbA1c(NGSP)	ヘモグロビンA1cとは、血液中のブドウ糖とヘモグロビンが結合したものです。検査時からさかのぼって過去1~2ヵ月間の血糖のレベルがわかり、糖尿病診断の指標となっています。また、加齢とともに上昇する傾向があります。
インスリン	食事の後血糖値が上昇すると、膵臓からインスリンが分泌され、細胞がブドウ糖を取り込むのを促進します。細胞に取り込まれたブドウ糖はエネルギー源として使われます。インスリンが不足すると、ブドウ糖を細胞内に取り込めなくなってしまいます。



炎症反応

項目名	分かること
CRP	C-リアクティブプロテインというたんぱく質で、体内で炎症が起きたり組織細胞に障害が起こるとこのたんぱく質が増えています。検査値が非常に高い場合は結核などの慢性感染症、関節リウマチなどの膠原病、心筋梗塞、肝硬変、悪性腫瘍などで、軽度の上昇はウイルス感染症、内分泌疾患などが考えられます。



甲状腺ホルモン

項目名	分かること
TSH	TSH(甲状腺刺激ホルモン)は甲状腺の分泌を調節するホルモンで、脳の下垂体から分泌されます。このTSHの分泌量が甲状腺ホルモンの分泌量に影響し、FT4、FT3の値と総合して甲状腺疾患などが診断されます。
FT4	FT3をつくる素になります。妊娠初期、甲状腺機能亢進症などの場合は高値となります。甲状腺機能低下症などの場合は低値となります。
FT3	糖・たんぱく、脂質の代謝を促進し、新陳代謝を高める働きをします。甲状腺機能亢進症などの場合は高値となります。



甲状腺超音波

分かること
喉の部分にある甲状腺に超音波をあて甲状腺の大きさや腫瘍病変の有無、リンパ節の腫れなどを調べる検査です。バセドウ病(甲状腺機能亢進症)、慢性甲状腺炎(橋本病)、腺腫様結節、腺腫様甲状腺腫、甲状腺嚢胞、甲状腺癌などがわかります。

主な所見・診断

甲状腺腫大	甲状腺全体が腫れている状態です。バセドウ病、慢性甲状腺炎(橋本病)などが疑われます。一度、精密検査をお勧めします。
腺腫様甲状腺腫	腺腫様甲状腺腫は、甲状腺の細胞が増殖(過形成)して、しこり状に発達しているものです。甲状腺の機能(甲状腺ホルモンの分泌)が正常で、なおかつ良性と診断されれば、すぐに身体に害を及ぼすことはありません。経過観察が一般的です。
甲状腺嚢胞	嚢胞は、中に液体の溜まった袋状のものです。ほとんどが良性です。



膠原病

項目名	分かること
リウマチ因子	リウマチ因子(本当の名称はリウマトイド因子)は、免疫グロブリンのひとつであるIgGに対する自己抗体で本来関節リウマチに特異的な検査項目ではありません。関節リウマチ患者のリウマチ因子陽性率は約80%で、正常者でも1-5%程度陽性となります。
抗核抗体(ANA)	抗核抗体とは自分自身の体を構成する細胞の核に対する抗体(自己抗体)で、膠原病の患者様の血液中に、高頻度に検出されます。しかし、健康でも陽性となる人がいるため、陽性だから必ずしも病気とは限りません。膠原病内科での精密検査が必要となります。



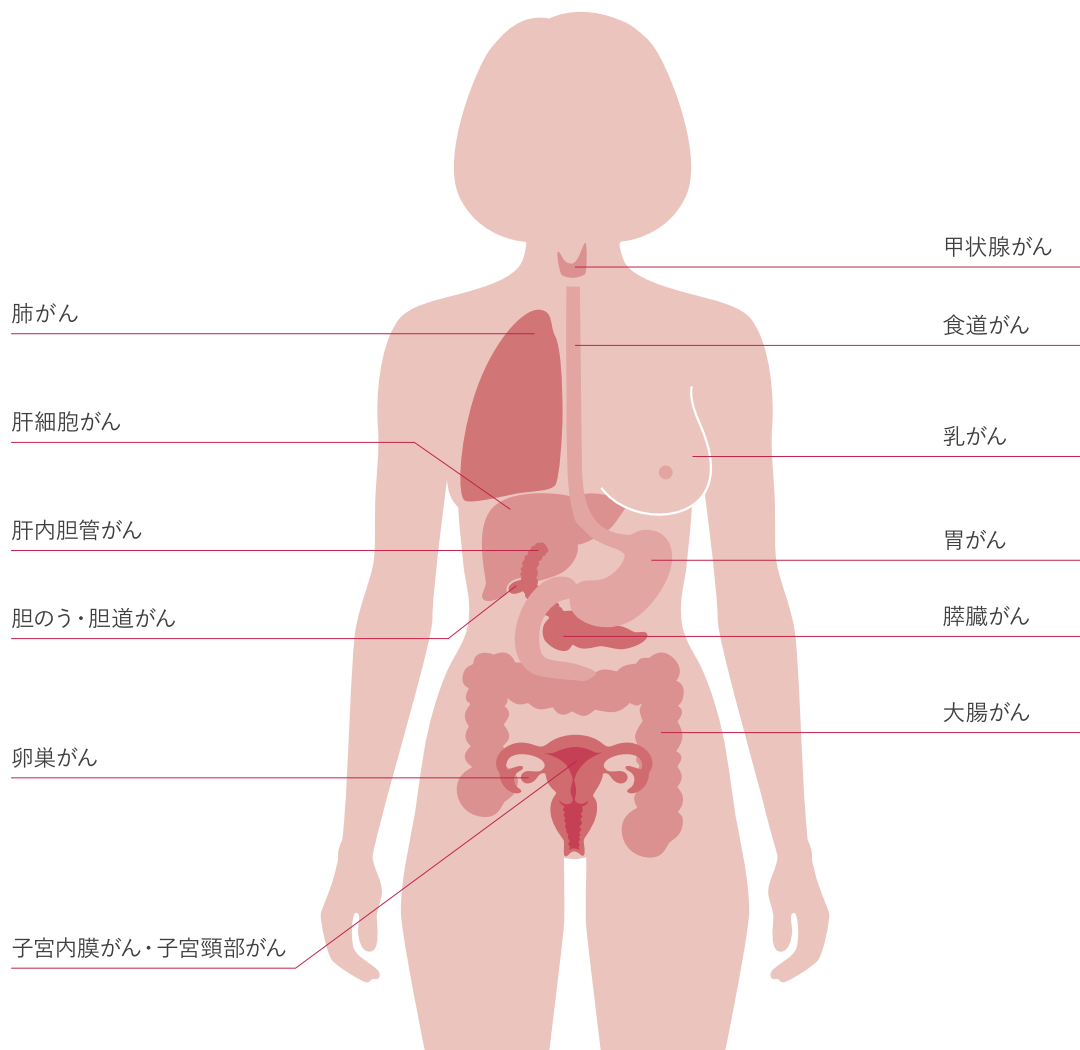
腫瘍マーカー

分かること

腫瘍マーカーはがん細胞が作り出すたんぱく質や酵素、ホルモンなどの特殊な物質です。
その数値の上昇をチェックすることで、腫瘍の発生やその種類、進行度などを判断する手がかりとします。

ただ、CEA、CA19-9などは複数の臓器のがんで上昇する可能性があり、既に診断されたがんの治療効果の判定と再発のチェックに利用するのが一般的で、画像診断の補助として用いるのが基本です。

腫瘍マーカー検査だけでがんを早期発見することは難しく、画像検査などを組み合わせることで、よりがんの発見率を高めてくれます。
もしも腫瘍マーカー検査が陽性であれば、超音波検査、CTやMRI、内視鏡など画像検査を含めた精密検査を必ず受けるようにしてください。



抜粋例	CA125	CA19-9	CEA	CA15-3	SCC
卵巣・子宮	◎ (100以上)	○	○	○	○
乳腺			○	◎	
食道・胃・大腸	○	○	◎	○	○
肝臓	○		○		
膵・胆道系	○	◎	◎	○	
気管支・肺		○	◎	○	◎
甲状腺			○		

◎…まず精査すべき対象臓器 ○…その他可能性のある対象臓器



感染症

項目名	分かること
HBs抗原	B型肝炎ウイルスに感染しているかを調べます。陽性の場合には、精密検査が必要です。過去の精密検査の結果無症候性キャリアと診断されている方は定期的な肝機能検査・腹部超音波検査を受けることをお勧めします。
HBs抗体	過去にB型肝炎に感染した方や、予防接種(B型肝炎ワクチン)を受けた方は陽性になります。
HCV抗体	C型肝炎ウイルスに感染しているかを調べます。過去の感染でも陽性になります。陽性の場合には精密検査が必要です。
梅毒(RPR、TPHA)	梅毒は性感染症の一つです。この検査ではTPとRPRという二つの抗体検査の結果を見て判断します。感染が疑われる場合は、婦人科にて精密検査を行うことをお勧めします。感染している場合は周囲で感染の可能性がある方(パートナー等)と一緒に検査・治療を行うことが重要です。



腹部超音波

分かること
超音波を発信する装置(プローブ)を腹部表面に当てて、腹部の臓器(肝臓、胆のう、膵臓、腎臓、脾臓、腹部大動脈)から跳ね返る超音波を画像化したものです。きれいな画像が得られるように、装置をあてる部分にはゼリーを塗ります。各臓器の腫瘍をはじめとして、結石、脂肪肝等の生活習慣病と関連が強い所見も発見できます。

主な所見・診断

肝血管腫	血管から構成される肝臓の代表的な良性腫瘍です。ただし、徐々に大きくなることもあり、経過観察を受けてください。
胆嚢腺筋腫症	胆嚢の壁が全体あるいは限局的に肥厚する良性疾患です。人間ドック受診者の1%前後に認められています。経過観察を受けてください。
腎血管筋脂肪腫	腎臓に発生する最も頻度の高い良性腫瘍です。腫瘍組織は血管・筋・脂肪から構成されます。基本的には経過観察でよいのですが、腫瘍が大きい場合は出血の危険性もあり、外科的手術の適応となることがあります。



上部消化管検査・胃がんリスク

項目名	分かること
X線(バリウム造影検査)	造影剤のバリウムを飲んで、食道・胃・十二指腸の中をX線で映し出す検査です。臓器の形の異常や粘膜の表面の凹凸の有無をみることにより、画像診断します。
内視鏡	先端に映像機能のある内視鏡を、口または鼻腔から挿入し、食道・胃・十二指腸の中を検査します。色調や凹凸、形状を観察することにより、診断をします。病変を認めた場合、生検し、組織検査で詳しく診断することもあります。
ABC分類	血液検査で、ピロリ菌感染の有無と胃の粘膜の萎縮程度を調べ、胃がんの発症リスクの度合いに応じてA・B・C・Dに分類・判定をする検診方法です。胃がんの発症リスクは、D群>C群>B群>A群の順に高くなります。
抗ヘリコバクター抗体	胃がんの主な発症原因はピロリ菌感染です。ピロリ菌の感染歴を調べるために、血液による抗ヘリコバクターピロリ抗体検査が広く用いられています。

主な所見・診断

食道裂孔ヘルニア	食道と胃のつなぎ目の筋肉が緩くなり、胃酸や食物が胃から食道側に逆流しやすい形態となっている所見です。胸やけや呑酸(どんさん)、みぞおちあたりの痛みや食物の詰まり感を感じることがあります。
逆流性食道炎	食道の粘膜、とくに下部の粘膜に認める炎症性の所見です。胃酸・食物の逆流などで起きることが多いと考えられています。胸やけや呑酸(どんさん)、みぞおちあたりの痛みや食物の詰まり感を感じることがあります。
胃ポリープ	胃の粘膜に認める隆起性病変の名称です。多くは良性です。慢性胃炎に関連して発生する過形成性ポリープや、原因は不明ですが炎症のないきれいな胃粘膜に発生する胃底腺ポリープがその多くを占めます。症状はとくにありませんが、稀に、大きなポリープでは出血やがんの合併を認めることもあります。



乳房検査

項目名	分かること
乳房超音波	超音波検査は「腫瘤（しこり）」の有無や、腫瘤の質的な診断を得意としており、手で触っても分からないような数mmの腫瘤を見つけたり、腫瘤の性状を知ることができます。乳がんだけでなく、良性疾患でもある嚢胞や線維腺腫の診断にも用いられます。

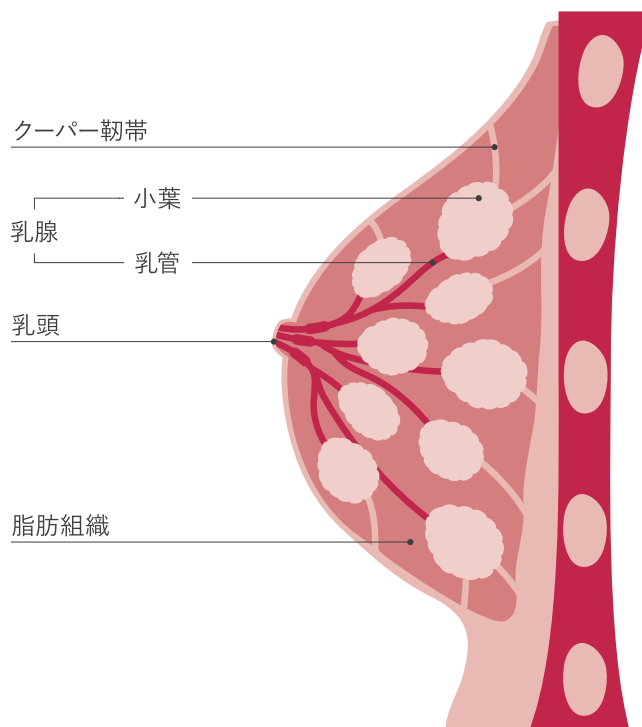
主な所見・診断

嚢胞	乳腺がむくんでいる状態で、乳管に水が溜まっていることを指します。女性ホルモンの分泌と吸収のバランスが崩れて発症すると言われており、稀ではありません。35～50歳の女性に多く、将来的に消失することもあります。
線維腺腫	乳管の周囲の膠原線維（一般的にコラーゲン線維としてよく知られる）が塊となり、腫瘤として認識できるものです。腫瘤は丸く、乳房の中でこころと動くのが特徴で、がんに比べて柔らかく弾力があり、10～20代の女性に多くみられます。
乳腺症	女性ホルモンのバランスが崩れることにより起こる、乳腺の様々な良性の変化の総称です。30代～40代の女性に多くみられますが、閉経後も続く方もいます。痛みを伴ったり、嚢胞や線維腺腫を伴うこともあります。

項目名	分かること
マンモグラフィ	乳房専用の撮影装置で、乳房を薄く伸ばし固定してX線で撮影します。微細な石灰化や、腫瘤などを発見できます。2方向（縦方向・横方向）から撮影することで、乳腺組織の全体的な把握や、病変の位置確認ができ、乳がん検診として最も実績のある検査です。

主な所見・診断

石灰化	乳管にカルシウムが沈着している状態が考えられます。乳がんが理由でがん細胞の周囲に石灰化が認められることもありますが、がんがなくても乳管内の乳汁が石灰化として認められることもあります。石灰化の形状や分布などによって、いずれの場合かを診断します。
腫瘤	乳房に認められる腫瘤には、前述の線維腺腫や嚢胞以外には乳がんなどが考えられます。マンモグラフィで腫瘤が認められた場合、形状や濃度から、良性か悪性かを診断します。乳腺の量や重なり具合によって、しこりとして描出されにくい場合があるため、エコー検査と併用した方がより正確な診断が可能となります。



乳がん COLUMN

ブレスト・アウェアネス

「Breast Awareness」ってなに？ 乳房の健康チェックのすすめ

普段から自分の乳房を気にかける習慣を持つことを「ブレスト・アウェアネス」といいます。

乳がん早期発見の近道と言われており、自己触診のような「しこりを探す」という意識や手法ではなく、

「いつもの乳房と変わりがないか？」という気持ちで行う、乳房の健康チェックです。

乳がんは自分で触って見つけることができる可能性がある数少ないがんです。

着替えや入浴などの際に、ご自身で乳房を見て、触って、感じて、乳房の変化に気をつけましょう。

罹患率増加傾向？ 生涯で9人に1人が乳がんになると予測されています。

30～40歳代女性の乳がん罹患も珍しくありませんが、早期発見・早期治療を行うことで、長期生存が見込めます。また早期治療は手術や薬物療法が小規模で済む可能性が高く、治療後の生活の質の維持・向上が期待されます。ご家族に乳がんや卵巣がんにかかった方がいる場合、乳がんの罹患リスクは高くなります。

乳房の変化を自覚したら速やかに医療機関を受診しましょう。

定期的な乳がん検診の受診をオススメします。乳がん検診を習慣化させることも「ブレスト・アウェアネス」に繋がります。

今の自分に合った乳がん検診はなんだろう？

「乳房超音波」？ それとも「マンモグラフィ」？ 今の自分が受けるべき乳がん検診は？

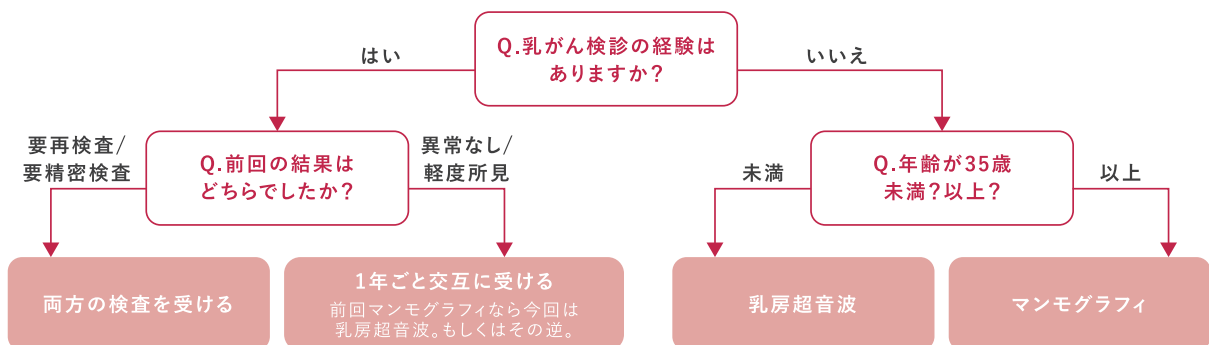
代表的な乳がん検査に「乳房超音波」と「マンモグラフィ」がありますが、

それぞれ検知する病気に向き不向きがあります（詳しくはP12.乳房検査の欄を参照）。

そのため、**基本的に両方の検査を受けること、もしくは両方の検査を1年ごと交互に受けることを推奨しております。**

しかし年齢やその他の影響因子によっても検査の向き不向きは変わります。

今の自分はどのような検査を受けたらよいか、下の質問に答えて、自分にあった検査を見つけてみましょう。



※視触診のみの検診は推奨いたしていません。



婦人科検査

項目名	分かること
経腔超音波	超音波を腔の中からあてて、はね返ってくる反射波を画像化して、子宮や卵巣の状態を調べる検査です。自覚症状のない子宮や卵巣の小さな異常も鮮明に見ることができます。

主な所見・診断

子宮筋腫	子宮の筋肉にできる良性の腫瘍です。過多月経、月経痛、不正出血、不妊症などの原因になりますが、無症状の場合も多いです。大きさ、症状、年齢、妊娠希望の有無などを考慮して、婦人科医師と治療方針を決めることをお勧めします。
子宮腺筋症	子宮筋層内に子宮内膜組織に類似した組織を認める疾患で、30～40歳代に多い良性の病気です。治療方針は基本的には子宮筋腫と同じになります。婦人科医師にご相談することをお勧めします。
卵巣嚢腫	卵巣にできる腫瘍のうち、袋（嚢胞）の中に液体が入っている状態の腫瘍です。卵巣嚢腫はほとんどが良性で、20～30歳代の若年層にも多い病気ですが、あらゆる年齢層に発生します。捻転や破裂は激痛の原因になることがあります。また、まれに悪性化の可能性があるため、経腔超音波検査による定期的な経過観察をお勧めします。
子宮内膜ポリープ	子宮内膜の細胞が異常増殖し、子宮の内腔に突出したものです。一般的には良性腫瘍であることがほとんどですが、がんが隠れていることもあります。貧血や不妊の原因になる可能性があるため、婦人科受診をお勧めします。
子宮内膜肥厚	子宮内膜は、毎月月経周期に伴って増殖したりはがれたりを繰り返しています。女性ホルモンの影響で、子宮内膜が異常に分厚くなる場合があります。子宮体がんや体がんの前がん状態が見つかることもあるため、婦人科受診をお勧めします。

項目名	分かること
子宮頸部細胞診	子宮頸部に発生するがんを調べることができます。無症状のうちに1年に1回検診を受けることが大切です。クリアージュ東京では、ベセスダ分類とクラス分類の二種類で検査結果をお伝えしています。

主な所見・診断

ベセスダ分類	従来のクラス分類	結果	推定される病理診断	詳細
NILM (ニルム)	I・II	陰性	非腫瘍性所見、炎症	異常なし：定期的な検診をお勧めします。
ASC-US (アスカス)	II～IIIa	意義不明な異型扁平上皮細胞	軽度扁平上皮内病変疑い	要精密検査： ①HPV検査を同時に実施していて、その結果が陰性だった場合、定期的な細胞診の検査をお勧めします。陽性だった場合、コルポスコピー、生検をお勧めします。 ②HPV検査を同時に実施していない場合、6ヵ月後と12ヵ月後に細胞診の再検査をお勧めします。婦人科医師のコメントに従い、医療機関を受診してください。
ASC-H (アスクエイチ)	IIIa・IIIb	HSILを除外できない異型扁平上皮細胞	高度扁平上皮内病変疑い	要精密検査： 直ちにコルポスコピー、生検をお勧めします。婦人科医師のコメントに従い、医療機関を受診してください。
LSIL (ローシル)	IIIa	軽度扁平上皮内病変	HPV感染、軽度異形成	
HSIL (ハイシル)	IIIa・IIIb・IV	高度扁平上皮内病変	中等度異形成、高度異形成、上皮内がん	
SCC	V	扁平上皮がん	扁平上皮がん	要精密検査： コルポスコピー、生検、頸管組織診、内膜細胞診をお勧めします。婦人科医師のコメントに従い、医療機関を受診してください。
AGC	III	異型腺細胞	腺異型または腺がん疑い	
AIS	IV	上皮内腺がん	上皮内腺がん	
Adenocarcinoma	V	腺がん	腺がん	要精密検査： 病変の検索が必要です。婦人科医師のコメントに従い、医療機関を受診してください。
Other malign.	V	その他の悪性腫瘍	その他の悪性腫瘍	

項目名	分かること
ハイリスクヒトパピローマウイルス(HPV)	大部分の子宮頸がんはハイリスクHPVが原因です。ハイリスクHPVに感染しても症状は全くありませんが、簡単な検査で診断できます。子宮頸部細胞診と併用すると精度が上がります。検査結果によって今後の方針が異なってきますので、婦人科医師コメントをご参照ください。



女性ホルモン

項目名	分かること
黄体形成ホルモン(LH)	排卵の誘発やプロゲステロンの分泌促進、子宮内膜の調整、妊娠の維持に必要です。
卵胞刺激ホルモン(FSH)	卵胞の発育、月経周期コントロール、エストロゲン生成促進に関係します。
エストラジオール(E2)	生殖機能の発達に関係します。30代後半から少しずつ分泌が低下し、50歳前後の閉経期に急激に低下します。骨の形成に関わります。
プロゲステロン(P)	黄体ホルモンとも呼ばれています。排卵後に卵巣から分泌され、妊娠の準備と維持をする働きがあります。
テストステロン(TS)	筋肉や骨の形成にかかわっています。気力や認知力、運動機能などを支えています。

女性ホルモンの考え方

ホルモン値は変動を繰り返しながら閉経に向かうため、再検査した際に数値が変わることもあります。卵巣機能が低下してくると、卵巣から分泌される女性ホルモンの一種であるエストラジオール(E2)が低下し、脳の下垂体から分泌される卵胞刺激ホルモン(FSH)が増加していきます。閉経は1年以上月経がないことで診断されますが、ホルモン値としては「FSH \geq 40mIU/ml、E2 \leq 20pg/ml」が閉経の指標とされています。このE2、FSH以外のホルモン値も卵巣機能低下に伴い変化がみられます。あくまでも現在の状態として、参考にしてください。

その他検査

項目名	分かること
抗体検査	妊産婦の感染により流産や早産のリスクになる感染症に対して、過去の感染または予防接種により、現在感染を阻止できる抗体価があるかどうかを判定します。免疫が不十分な場合は、各感染症の予防接種を受けることをおすすめしております。結果報告書の総合コメント欄をご確認ください。

対象となる感染症

風疹	発熱などの症状とともに全身に発疹が出る感染症。抗体を持たない妊娠中の女性が感染すると赤ちゃんに先天性風疹症候群を起こすことがあります。
ムンプス	流行性耳下腺炎(通称:おたふくかぜ)の原因となるウイルス。妊娠初期に感染すると、流産の確率が高まります。
麻疹(はしか)	高熱と発疹を伴う感染症。感染力が強く、抵抗力がない人が感染するとほぼ100%発症します。妊娠中に感染すると重症化しやすいといわれています。
水痘・帯状疱疹ヘルペス	水疱瘡(みずぼうそう)や帯状疱疹の原因となるウイルス。妊娠中の感染は、妊婦自身の重症化のみならず、赤ちゃんに重大な影響を生じる危険性があります。

項目名	分かること
卵巣年齢検査 (AMH/抗ミュラー管ホルモン)	AMH/抗ミュラー管ホルモンは、発育中の卵胞から分泌されるホルモンです。卵巣予備能(これから発育できる卵子数)の指標とされています。加齢に伴い徐々に減少し、閉経を迎える頃には検出されなくなります。疾患との関連では、多嚢胞性卵巣症候群(PCOS)で高値となる可能性があります。また、ピルを服用中の方は少し低い値がです。

年齢別平均値(ng/ml)

~27歳	4.69	32歳	3.54	37歳	2.27	42歳	1.00
28歳	4.27	33歳	3.32	38歳	1.90	43歳	0.72
29歳	4.14	34歳	3.14	39歳	1.80	44歳	0.66
30歳	4.02	35歳	2.62	40歳	1.47	45歳	0.41
31歳	3.85	36歳	2.50	41歳	1.30	46歳~	0.30

JISART(日本生殖補助医療標準化機関)より

卵巣予備能の考え方

AMH値はあくまでも卵子の数の指標です。卵子の質がよいか、順調に育つかは実年齢に相関します。妊娠するためにはいくつもの因子が関係するため、AMH値から安易に「妊娠できるか」を判定すべきではありません。また、AMH値が低値だからといって自然妊娠できないわけではありません。AMH値は、「これから発育できる卵子の数の指標」として考え、ライフプラン作りの参考にしてみてください。

■ アフターフォロー・お問い合わせ

外来でアフターフォローもさせていただいております。

何かご不明な点、ご不安な点がございましたら、こちらのお電話番号よりご連絡くださいませ。

TEL:0120-815-835 (火曜～土曜 8:30～16:00 ※日月を除く)

■ 婦人科外来のご案内

当院で婦人科検査をご受診後、気になることがある場合は
婦人科外来にご連絡ください。

初めて婦人科外来のご予約をご希望の方は、
右記QRコードより簡易WEB問診のご入力をお願いいたします。

婦人科外来専用TEL:0120-735-705

(火曜～金曜 14:00～15:00)

婦人科外来
簡易WEB問診

